

重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定

課題の種類1	課題の種類2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	室内でオンラインゲームなどの仮想世界で過ごす児童がふえており、現実世界で、ものづくりやスポーツ、文化芸術などに触れる機会が少ない。	市内7小学校に地域コーディネーターを配置し、年5回週末の午前中に、各コーディネーターが企画した、「試す、挑む、つくる」などの体験活動を実施する。	児童に対し、体験活動を通じて、自ら学び、自ら考える力などの生きる力を培うとともに、美しい自然に感動したり、他者と協働したりする活動を通して豊かな心を育むことを目指す。	各年度の4月1日時点での児童数をもとにした参加者数の割合(20%)	%	20	12	引き続き、地域コーディネーターを中心に体験活動を提供していく。 また、学校や児童クラブ等と連携し、週末のみならず平日の放課後にも体験活動を行いたい。
②学校と地域の課題	その他	本市では、これまで学校支援活動に取り組んでいなかったため、学校と地域の連携が進んでいなかった。市教委の事業として放課後子ども教室のみを取り組んでいた。 本市でも地域学校協働活動が始まり、学校と地域との連携が進んできているが、放課後子ども教室も地域学校協働活動の一部であるとの認識が関係者の中で浸透しておらず、放課後子ども教室は市教委のみで行うものとなっている。 そのため、地域学校協働活動と放課後子ども教室が有機的な連携がとれていない状況にある。	地域学校活動推進員、学校関係者、放課後子ども教室コーディネーター(地域コーディネーター)等関係者を対象にした会議または研修会を年2回開催する。	本市の地域学校協働活動が放課後子ども教室も含めたものであるとの共通認識のもと、地域学校協働活動推進員、学校、地域コーディネーター等が連携することで、より学校と地域が連携・協働した活動となる。	地域学校協働活動の関係者を対象にした市主催の会議または研修会の開催	回	2	1	関係者会議(地域学校協働活動推進員と学校関係者)の開催は1回のみであったが、情報交換の場を提供できたことで、各校の活動の取組が増えたように感じる。課題の1つである推進員不足については、2校を対象に試用を行い様子を見たい。放課後との連携は以前から関係者への働きかけができず、単独の事業との誤解が改善できなければ連携は難しいと考える。